

## 組織型推定に苦慮した高異型度子宮内膜間質肉腫の2症例

◎五十嵐 彩香<sup>1)</sup>、佐藤 龍哉<sup>1)</sup>、杉山 春香<sup>1)</sup>、堀井 靖久<sup>1)</sup>、河井 洋子<sup>1)</sup>、岩崎 亜紀子<sup>1)</sup>、谷崎 隆行<sup>1)</sup>、勝又 俊郎<sup>1)</sup>  
学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属静岡病院<sup>1)</sup>

【はじめに】高異型度子宮内膜間質肉腫(High-grade endometrial stromal sarcoma,以下 HGESS)は、子宮体部悪性腫瘍として稀な疾患である。過去5年間で当院で子宮全摘術にてHGESSと診断された症例が3例あり、うち細胞診では1例が陰性、2例が悪性と判定されている。細胞診で悪性と判定するも、組織型推定に苦慮したHGESSの2症例を経験したので報告する。

【症例1】50歳代女性。2経妊2経産。閉経。主訴は不正性器出血、前医超音波検査にて体部に異常所見が認められ、当院紹介受診。子宮体部擦過細胞診が施行された。

【症例2】60歳代女性。1経妊1経産。閉経。主訴は不正性器出血、前医内膜細胞診標本にてClassⅢ。卵巣囊腫、CA125高値を指摘され、当院紹介受診。子宮内膜擦過細胞診が施行された。

【細胞所見】両症例とも、壊死物質を背景に、比較的小型で類円形核を有し、N/C比が非常に高く、大小不同、核形不整がみられ、腫大した核小体を認める異型細胞が、孤立散在性～結合性の緩い集塊状として出現していた。悪性と

判定できるものの、組織型推定は困難であった。

【組織所見】両症例とも、著明な壊死に加え、異型類円形細胞の密な増生を認めた。特に症例1では細胞分裂像が目立った。

【免疫染色】Vimentin 部分的陽性,CD10 一部陽性,CK AE1/AE3 陰性,Desmin 陰性,CD45RO 陰性,CD79 $\alpha$  陰性, CD56 陰性,p53 一部陽性,ER・PgR 陰性を示した。

【結語】今回稀な疾患2例を経験した。子宮内膜擦過標本では腫瘍全体を反映してるとはいえないため、悪性と判定することは容易であるが、組織型推定は困難であることが多い。出現頻度の高い組織型だけでなく、典型的な細胞像を示さない症例に対しては、肉腫や非上皮性腫瘍の可能性を念頭に置き、考えられる組織型を臨床に提示することが重要であると考えます。

【謝辞】ご指導頂きました当院病理診断科 名誉教授和田了先生に深謝いたします。

連絡先:055-948-3111(内線:1407)